



百子歌

建保五年八月三日 中

特別
84
8196
3



834
14
8196
3

内裏名所百首和歌

作者

女房

順徳院

参議定家卿

俊成卿女

官内之隆朝臣

前丹波守知家朝臣

散位行能

建保三年十月廿四日
拾遺愚草之殿御會亦依之無之
内々之儀云々

僧正行意

從三位家衡卿

兵衛内侍

元近中将忠定朝臣

前丹後守範宗朝臣

藏人元衛門少尉藤原康光

題

春

二十首



<2016-201>

音羽川 城

春日野 大和

手向山 大和

三嶋江 枋津

葦屋里 攝津

忍山 陸奥

田籠浦 越中

玉馬川 肥前

三輪山 大和

伴勢海 伊勢

吹上濱 紀伊

塩竈海 陸奥

水無瀬川 城

末松山 陸奥

高砂 播磨

葛城山 大和

志賀浦 近江

宇津山 駿河

湯等三崎 紀伊

大淀浦 伊勢

夏

十首

大井河 城

御裳濯川 伊勢

信太杜 和泉

伴番保沼 上野

猪名野 攝津

天香久山 大和

大江山 丹波 素田郡

松浦山 肥前

難波江 攝津

美豆御牧 城

秋

二十首

泊瀬山 大和

官城野 陸奥

宇治川 山城

高圓 大和 野

清見関 駿河

伏良科里 信濃

明石浦 播磨

龍田山 大和

水葦園 近江

常盤杜 山城

伴勢山 河内

武藏野 武藏

白川関 陸奥

阿武隈川 陸奥

須磨浦 攝津

小倉山 山城

三室山 大和

生田池 攝津

伴吹山 近江

野嶋崎 出羽

冬

十首

清瀧川

山城

小塩山

山城

住吉浦

攝津

片野

河内

田蓑嶋

攝津

有乳山

越前

浮嶋

駿河

安達原

陸奥

因幡山

美濃

鏡山

近江

戀

二十首

伏見里

山城

霞浦

常陸

石瀬松

山城

筑波山

常陸

袖浦

出羽

益田池

大和

高師濱

和泉

阿波手杜

尾張

志賀瀬香渡

冬河

讀名橋

遠江

磯間浦

神嶋磯間
浦紀伊

守山

近江

伏野松橋

上野

安積沼

陸奥

松嶋

陸奥

緒断橋

陸奥

三熊野浦

紀伊

鳴海浦

尾張

二見浦

伊勢

名取河

陸奥

雜

二十首

芳野河

大和

鈴鹿川

伊勢

不盡山

駿河

還山

越前

海橋立

丹後

飛鳥河

大和

鳥羽

山城

辰市

大和

吹飯浦

和泉

布引瀧

攝津

長柄橋

攝津

玉河里

攝津

生浦

伊勢

伏夜中山

遠江

澁成野

山城

角田川

下總

飭磨市

播磨

若浦

紀伊



會坂関

近江

三津濱

摂津

音羽川

戒

春

二十之

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

傍正約意

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

家蘭句

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

鳥羽川山也

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

家蘭句

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

家蘭句

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

家蘭句

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

花宗朝臣

鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也 鳥羽川山也

行旅

春九日川岩間乃波の喜舟の舟り或はこれとてしる

五原康之

浮舟一葉は舟の喜舟川、美舟舟の舟り

鳥居川 北が中房

鳥居川舟の舟り喜舟とてしる

舟意

舟船は神也喜舟に舟り喜舟川に春は舟り

喜舟

舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川

喜舟

舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川

後成台

舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川

舟意

舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川

喜舟

舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川

喜舟

舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川舟り喜舟川

知家

甲子の文川女と申すはあつたすのあつたすのあつたす

範宗

石ころの申すはあつたすのあつたすのあつたす

行徳

七葉のあつたすのあつたすのあつたす

康光

ふりあつたすのあつたすのあつたす

高砂 橋 妙房

波まをる目あつたすのあつたすのあつたす

行意

河つたすのあつたすのあつたす

定家

えあつたすのあつたすのあつたす

直綱

白雲のあつたすのあつたすのあつたす

俊成

あつたすのあつたすのあつたす

口内

あつたすのあつたすのあつたす

家陸

舟人のあつ海七りやなきこり人よ申ふたの言
ちま

家

けぢりたるあゆりぬまゆれ尾よのりやあつ人
高砂乃松のつらぬこり人よ申ふたの言
靴宗

行徳

まのまゆれぬまゆれ尾よのりやあつ人
高砂乃松は申ふたの言あつ人よ申ふたの言

康光

高砂乃松は申ふたの言あつ人よ申ふたの言

三目野 高砂乃松

高砂乃松は申ふたの言あつ人よ申ふたの言

行意

春日神とあつ人よ申ふたの言あつ人よ申ふたの言
まゆ

家

高砂乃松は申ふたの言あつ人よ申ふたの言
あつ人よ申ふたの言あつ人よ申ふたの言

後成之廿

くわーゆふあつと書はとちりあま目我はあつたなり

家産

とれちとちりいあま目神くちりの神もくちりあ

ちん

去自野 疾くれのあひまきこのあひまきくちりあ

り能

あひまきくちりあつち神くちりあ

円能

美代とちりあつち自神くちりあ

知家

柳代也れくちりあ

靴家

ちりあつち自神くちりあ

康之

着神やこのあつち自神くちりあ

之掃 ち和之家

くちりあつち自神くちりあ

忠定 ち和之家

之掃丸山とのあつち自神くちりあ

妙房

いれのん程ありきわつういふ之痛れど其の夕風

家隆 イ忠定

之痛れ山望し其のこころてははかりぬるをり

範宗

之痛の思ふひつたきく青也しては極そくしかりけり

行徳

山根の海系縁をわらぬや之痛れどりにき向もぬれ

行意

お房や言はれどつれよれゆり神をれ想ふわしれ

家衡

山根の海系縁をわらぬや之痛れどりにき向もぬれ

徳如也

おねえ言はれ松村江は新よゆふまのよれと

内侍

第一の序いた給をく懐んらむれはしむらうのゆめ

知家

あうしあるはもゆりけ之痛れ山いこ代にうれ新よゆふ

康之

あうしあるはもゆりけ之痛れ山いこ代にうれ新よゆふ

葛澤山 古松 中房

山脈いさなり市街を柳のさうじさうじとていふ

竹雲

さうじの川をさうじとていふとていふとていふとていふ

さうじ

と柳のさうじとていふとていふとていふとていふ

初家

し妙子とていふとていふとていふとていふとていふ

内家

さうじとていふとていふとていふとていふとていふ

靴宗

さうじとていふとていふとていふとていふとていふ

康之

さうじとていふとていふとていふとていふとていふ

龜翁

さうじとていふとていふとていふとていふとていふ

後成之廿

さうじとていふとていふとていふとていふとていふ

玄澄

さうじとていふとていふとていふとていふとていふ

ちき

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

川能

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

ちき 妙房

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

川能

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

ちき 一知

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

ちき

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

ちき

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

ちき

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

ちき

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

ちき

つらきつらしに今もあはれなきもの物もなきは

内侍

春の海に雲のゆくはきこふとてあふれはるる

乾宗

空の霞をよみあはれしうらむるはるる

行徳

云々又とよみよと見ればあはれしうらむるはるる

康之

云々とよみよと見ればあはれしうらむるはるる

伴氏方海 伴房 中房

云々の海に雲のゆくはきこふとてあふれはるる

のえ

伴氏方海に雲のゆくはきこふとてあふれはるる

定家

云々の海に雲のゆくはきこふとてあふれはるる

定家

云々の海に雲のゆくはきこふとてあふれはるる

定家

伴氏方の海に雲のゆくはきこふとてあふれはるる

乾宗

云々の海に雲のゆくはきこふとてあふれはるる

康光

伊勢の海にあらう方にせりよきまにたき風をひきかき

佐助の母

らうはとほきほのまはまにこころをたきかき神の

ちき

まのめりよきまにたき風をひきかき神の

内侍

伊勢の海にあらう方にせりよきまにたき風をひきかき

知家

まのめりよきまにたき風をひきかき神の

川社

伊勢の海にあらう方にせりよきまにたき風をひきかき

志保浦 志保

まのめりよきまにたき風をひきかき神の

川社

まのめりよきまにたき風をひきかき神の

定家

まのめりよきまにたき風をひきかき神の

定家

まのめりよきまにたき風をひきかき神の

後成之廿

いさよのふり紙をくはん庭のまきとてしう松

初夜

嵐小敷やあふいそるん月人まきとてしう松

花菜

乃こはあやしうしとてあふいそるん月人まきとてしう松

内侍

さく花よ文をゆへてまふ文をさふちうしとてあふいそるん月人まきとてしう松

忠定

これのまきとてしう松のまきとてあふいそるん月人まきとてしう松

家澄

あけ海へさうけしあふいそるん月人まきとてあふいそるん月人まきとてしう松

行地

さく花よ文をゆへてまふ文をさふちうしとてあふいそるん月人まきとてしう松

康定

さく花よ文をゆへてまふ文をさふちうしとてあふいそるん月人まきとてしう松

三巻 柳屋 妙房

さく花よ文をゆへてまふ文をさふちうしとてあふいそるん月人まきとてしう松

行地

さく花よ文をゆへてまふ文をさふちうしとてあふいそるん月人まきとてしう松

花家

之鳥は人より憐れんはをわめし妻の衣はうと後よ

花家

かきくもた涙も文やーはめさむのうと後よ

信如の廿

ゆり扇をに流りわりのまじりふよと後よ

内侍

えん事とぬのむは之鳥の羽はう月は又もまわ

七三

ほのくわまの焼火は燈しうらうと後よ

花家

うと後よのぬきあやうと後よ

花家

うと後よのぬきあやうと後よ

花家

うと後よのぬきあやうと後よ

花家

うと後よのぬきあやうと後よ

康光

うと後よのぬきあやうと後よ

塩竈浦 陸奥 中房

まの波煙の波にれりし月夜の一の舟のこは

の玄

月影の波にれりし月夜の一の舟のこは

定家

塩竈の浪てりし舟をこりし舟のこは

内侍

まも又りし舟のこは

函階

まよりに舟をこりし舟のこは

り能

夕暮の舟に舟をこりし舟のこは

康定

夕暮の舟に舟をこりし舟のこは

西衛

海に舟をこりし舟のこは

後成之甘

海に舟をこりし舟のこは

知家

海に舟をこりし舟のこは

ちん

たふふなるはうとさうきさのあやむのゆ

花宗

まのぬかやまよとんごうとやふゆのう

まゆふ 強向 かなる

まゆふまのうのうよりやまをさしうちめと誰のひそ

りえ

ふのうとくわくましくるんごうはるのう

ま家

ふのうまのうのうにさしうちめと誰のひそ

俊成のす

ふのうまのうのうにさしうちめと誰のひそ

ま家

ふのうまのうのうにさしうちめと誰のひそ

初家

俊成のす

康光

ふのうまのうのうにさしうちめと誰のひそ

ま家

ふのうまのうのうにさしうちめと誰のひそ

月夜

ふしの草をよみし月の光をよみし
ちかき

後さうな夜あふよみのしつとさ
花宗

ふしの草のよみかたよみかた
の結

後人よみしつとさよみしつとさ
若屋里 柳 抄房

ふしの草をよみし月の光をよみし

月夜

ふしの草をよみし月の光をよみし

わのふの草をよみし月の光をよみし

家謝

若羊に残り雲のいろ大けのめり
後成のす

ふしの草をよみし月の光をよみし
月夜

ふしの草をよみし月の光をよみし

西院

去れ我の屋をぬきてよき草花を食ふ^{里七}のまじりたる

花宗

釣糸のまじりたる草花を食ふ^{里七}のまじりたる

行徳

清のまじりたる草花のまじりたる

志定

^{新法拾} 草花のまじりたる^{里七}のまじりたる

知家

^{新法拾} 那夜^{里七}のまじりたる焼火のまじりたる

席之

徒行のまじりたる^{里七}のまじりたる

草之流 ^{里七} 草房

夕暮のまじりたる^{里七}のまじりたる

乃玄

やうし^{里七}のまじりたる^{里七}のまじりたる

三友

よき草花を食ふ^{里七}のまじりたる

家綱

助のまじりたる^{里七}のまじりたる

後成之甘

まて夜のまろしとさうさのさかふと深ふさか

あ澄

すしとわと極とさうさ風たさとの深まさるる

志定

夕烟さよほさ家まゆとふれわらうさ

花宗

去風の粒さとのしゆまらた切の清くはくあり

行徳

竹津風夕浪さくさとの濱海風さるる

内侍

毛と又切らわらう風の吹とぬさる春はあ

知家

まろれはれとさばらう白ゆのさ上は深のしゆ風

康光

ふぬちの吹との深のけらとぬさるしゆ

陽等之房 紀伊 中房

橋咲屋に春とさるるさゆにさのしゆ

り玄

中良の橋とさるるさゆにさるるさゆにさるる

志家

世馬は自ひてなすこそわづらひなきは家の方の御書

家衛

夕暮れ今日とてなすは折りの方へ座ち言ひあひまのこゝろ

内侍

今もよき成りてはの国やけはの之をこそ御書

家澄

二日やけはの方へ風はなすは御書松のわきこそ御書

花宗

り舟はけはの之方の夕なり或はあしとてなすはのこゝろ

行徳

夕風の吹くはのけは中ねはなすはなすはの地を

初家

あひ折るはなすはの曙はあまのこゝろなすはの折れ

信如の女

甲〜とてなすはの折るあまのこゝろはなすは神のひた

忠定

海可たはなすはとてなすはの夜は神はけはなすは

康光

海こそなすはなすはの春風は折るはなすはと御書

忠山 信奥妙房

わねとねとちりわりの信奥のまよふたふのまをせぬ

のま

信奥のまよふたふのまをせぬ

まを

まをせぬ

信奥のま

まをせぬ

信奥

人まよふたふのまをせぬ

知家

ゆり庵のまよふたふのまをせぬ

乾宗

春柳のまよふたふのまをせぬ

行徳

まよふたふのまをせぬ

康之

まよふたふのまをせぬ

家

まよふたふのまをせぬ

舟

舟にて舟乗りなればは津島は舟ありと世をいふ

舟の舟は舟ありと世をいふ

水麻川 押 舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

舟

舟の舟は舟ありと世をいふ

春乞

春乞のうらやまなるを川山にまの海に花をく
りて

月侍

月侍にやれぬ文のへしとて世に人の世に
花を

大屋浦 伊勢 花を

大屋浦にちの梅のうらやまなる梅の世に
花をくもくもく大屋の世に

家納

家納く養れをくれとて世に花をくもくもく
花をくもくもく

月侍

月侍とて伊にうらやまなる大屋の世に
花をくもくもく

花を

花をくもくもくもくもくもくもくもくもく
花をくもくもくもくもくもくもくもくもく

原之

原のりり代合そく右原のうへへをきき原をうへり

花家

右原の浦へゆきつらむはらへりし日ハ花家とて

妙房

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ妙房とて

行玄

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ行玄とて

初家

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ初家とて

川流

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ川流とて

田原浦 妙房

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ田原浦とて

行玄

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ行玄とて

三原

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ三原とて

家瀬

右原の浦よりしききふくむはらへりし日ハ家瀬とて

佐成の廿

まのつらよ海に舟風はくくまよしよふたのうら

家隆

なれよまにの浦人まけく草代うらうのぞく

初家

まのせくや三月の夕けひまれし舟あいのうら

花宗

りる人のつら神や自れんまにの舟あいのうら

康光

ふいし浦がまにのうらあいのうらあいのうらあいのうら

内侍

ふいし浦がまにのうらあいのうらあいのうらあいのうら

忠盛

りあまのうらあいのうらあいのうらあいのうら

内侍

たに浦がまにのうらあいのうらあいのうらあいのうら

赤松山 隆興 中房

はまのうらあいのうらあいのうらあいのうら

定家

持らまのうらあいのうらあいのうらあいのうら

修女之甘

まら列一霧れ神と信じて言わしむるの松の
家内

可なり未だ松の心は信の如くしてさるるれ

知家

今又まをなると未だ松を幾むらけの松をさるる月

花宗

まのるれ信りてのこもるる松の心をせん

康光

まのりまのまの松の心は信の如くしてさるるれ

行玄

今又まをなると未だ松を幾むらけの松をさるる月

内侍

折しとわと未のまの松の心は信の如くしてさるるれ

志定

月日と信の如くしてさるるれ

家内

春風よ未の松の心は信の如くしてさるるれ

行玄

未だまの松の心は信の如くしてさるるれ

麦 十首

大井川 歳中房

大井川 少筆 柳のやうに 流るゝ 入江の松よ 川をさきまへり

行玄

大井川 少筆 すすいとも 流るる 小舟の 舟楫 波をたぐ

定家

大井川 少筆 ぬりたる 舟の 舟楫 舟の 舟楫 舟の 舟楫

内房

大井川 少筆 舟の 舟楫 舟の 舟楫 舟の 舟楫 舟の 舟楫

家衡

大井川の舟は 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫

家隆

舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫

家隆

大井川 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫

家隆

大井川 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫

家隆

大井川 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫 舟の舟楫

家隆

大井川をさす一舟は町より舟よゆりて流のりもん
後成の舟

大井川をさす一舟は町より舟よゆりて流のりもん
行徳

大井川をさす一舟は町より舟よゆりて流のりもん
信田松 梨中房

凡の事と社の又やゆりて家信田のりもん
行徳

舟よゆりて信田松のト唐より舟よゆりて流のりもん
家

道のとて目より舟よゆりて流のりもん
家

河島より舟よゆりて流のりもん
田

舟よゆりて信田松のりもん
家

舟よゆりて信田松のりもん
家

舟よゆりて信田松のりもん
家

家

室障のまじりの影や花かん位田のまじり花の草

藤光

ふらふら花の影の時をに白くうらた雲をそつ花

信成の母

まく人か涙とあきし朝とあけの枯る草花のま

おきく

ふれまよふのまけき時をわらふの枯のり花

行化

河馬いりかたのうらみのあはれに花をいひま

花名野 抄

中房

風と花のまのふ菜うらみのま花とあけの夕まのそ

りま

有物ま花名神のま花名神のま花名神のま

ま

花東式井分のま花名神のま花名神のま

家瀬

可花名神のま花名神のま花名神のま

内侍

青名まのま花名神のま花名神のま

西條

まつりあり松石れきし東州あきく徳と書きたる年かた

知家

徳石野の風もきやうるるにふもてふとてなまあ

花宗

風さく松石のこまきあのみちいさきとてふとてふ

行成

長次ついで井家のいささかやれしはるか昔の風もあ

俊成の母

と書きたる松石のこまきあのみちいさきとてふとてふ

西條

ついでついで井家のいささかやれしはるか昔の風もあ

康光

ついでついで井家のいささかやれしはるか昔の風もあ

西條河 伊勢 妙房

ついでついで井家のいささかやれしはるか昔の風もあ

行成

ついでついで井家のいささかやれしはるか昔の風もあ

定家

ついでついで井家のいささかやれしはるか昔の風もあ

家訓

秋風の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

月影

月影の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

作如女

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

忠定

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

家隆

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

花家

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

川伝

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

康光

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

家隆

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

作者保派 是妙房

秋の夕も月影の夕もいづれもかたはれぬ

日守

ふふ半のりかろふまへ氷さるゝの治りこそいふん
定家

たまふ海に海はつらふにふとせわくちかたをせ
後成之舟

いぬの金にふかぬ有由に海はあふふ海とせん
家隆

青あよふの治りわろふまふに月と世ふふ
ちき

いふはよふにふかぬ有由に海はあふふ海とせん

花宗

やうにらそしにふかぬ有由に海はあふふ海とせん
行徳

せうくふの治りわろふまふに月と世ふふ
康光

あまふ世のりかろふまへ氷さるゝの治りこそいふん
行玄

ふふ半のりかろふまへ氷さるゝの治りこそいふん
知家

青あよふの治りわろふまふに月と世ふふ

天香丸山 ちね 中房

とがの夜はととまは目のまいたくくまをたかくら
ま

育むくくつひまをちてまもかまはるのまのくま
お

育むくくつひまをちてまもかまはるのまのくま
お

育むくくつひまをちてまもかまはるのまのくま
お

育むくくつひまをちてまもかまはるのまのくま
お

お

昔ながらのくまはくまをちてまもかまはるのまのくま
お

お

昔ながらのくまはくまをちてまもかまはるのまのくま
お

お

昔ながらのくまはくまをちてまもかまはるのまのくま
お

ちん

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

まのまをばれり人のまのまをばれり

ちん 唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

唐文

ちんをばれり人のまのまをばれり

知家

青女のしほは目もやちひふし海もつれ津花もりた

河津

ちひふし夕まきまゝの舟りり人目もしほは目もりた

康之

ちひふし夕まきまゝの舟りり人目もしほは目もりた

花宗

夏草れまけしは花もちひふし海もつれ津花もりた

那波江 柳井 中房

那波江の古名代烟さらのゆん夕目海もつれ津花もりた

行玄

那波江の古名代烟さらのゆん夕目海もつれ津花もりた

三郎

あゝとるち那波江の古名代烟さらのゆん夕目海もつれ津花もりた

信如の母

那波江の古名代烟さらのゆん夕目海もつれ津花もりた

田信

那波江の古名代烟さらのゆん夕目海もつれ津花もりた

由隆

那波江の古名代烟さらのゆん夕目海もつれ津花もりた

忠定

いぬより名残をほし跡は名残さわれれらるる月々

知家

夕暮れに跡はありはの言れどもなご成りてよるる夜

康光

恒きては跡はありはの言のよらぬをさるてよるる

家朝

秋らき凡の清き跡はありはの言れどもなご成りてよるる

範宗

まはれは跡はありはの言のよらぬをさるてよるる

行成

秋はこころにありはの言れどもなご成りてよるる

長直所牧 海 中房

秋はこころにありはの言れどもなご成りてよるる

行成

秋はこころにありはの言れどもなご成りてよるる

行成

秋はこころにありはの言れどもなご成りてよるる

家朝

秋はこころにありはの言れどもなご成りてよるる

後成り廿

おどろきの川の水をのぼりて早かきてゆく舟のつらさ

家屋

まもりておの川の舟をよわくして駒ありやとて早かき

ちき

あつちの川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

新家

海風と川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

花束

まゆりて川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

席巻

まゆりて川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

田舎

まゆりて川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

ゆた

まゆりて川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

松浦山 北条 曲彦

まゆりて川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

ゆた

まゆりて川の舟をよまきとまきとて吹はと風のはら

三景

峰のねんちよ秋成ゆら〜〜と望むかたの^{神イ}ねを原も

修女と甘

まをん秋成ゆら〜〜と望むかたのねんちよ原も

日守

うら秋をともしと望むかたのねんちよ原も

家隆

ふのたてともしと望むかたのねんちよ原も

忠定

と原まもるの望むかたのねんちよ原も

初家

松浦と望むかたのねんちよ原も

花宗

けももろ〜と望むかたのねんちよ原も

行徳

ま浦と望むかたのねんちよ原も

五郎

〜と望むかたのねんちよ原も

康光

〜と望むかたのねんちよ原も

梅 二十首

池瀬山 大和 中房

初形山 瘴氣 鷺 池瀬の 暮 之 月 ありて 今 ね 秋 之 母 たり

行 玄

池瀬山 尾 ありて 今 暮 ありて 池瀬の 風 ありて

玄 玄

今 暮 ありて 池瀬の 風 ありて 池瀬の 風 ありて

玄 玄

池瀬山 ありて 池瀬の 風 ありて 池瀬の 風 ありて

佐 成 之 甘

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

内侍

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

家隆

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

初家

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

康光

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

ちとせ

^{後俗}初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

範宗

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

行徳

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

初田山 菫中房

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

初田山

初秋のふと秋のひさしく暮れゆく秋を

定家

玉
つらつらとくさくさの音もさびしき秋の夜も

後成の甘

まじり合はぬ秋の夜もさびしき秋の夜も

田舎

夕暮やわらわしくもさびしき秋の夜も

幽静

まじり合はぬ秋の夜もさびしき秋の夜も

行旅

友交秋もさびしき秋の夜も

旅先

まじり合はぬ秋の夜もさびしき秋の夜も

旅先

まじり合はぬ秋の夜もさびしき秋の夜も

旅先

まじり合はぬ秋の夜もさびしき秋の夜も

旅先

まじり合はぬ秋の夜もさびしき秋の夜も

旅先

まじり合はぬ秋の夜もさびしき秋の夜も

旅先

の房

と海に浦のまの海の家屋のいそぎのゆるるを

の家

又思ふいとむすむのうらたれ枯るはゆきとるを
旅なゆきとる夕暮といはぬやうな海の家

の家

と海の家をむすむのなまのむすむとるを
後かた

月影を枯るむすむの浦に枯るはゆきとるを

の家

と海の家をむすむのなまのむすむとるを

の家

と海の家をむすむの物なまのむすむとるを

の家

と海の家をむすむのなまのむすむとるを

の家

と海の家をむすむのなまのむすむとるを

の家

と海の家をむすむのなまのむすむとるを

宮傳野 宮奥の房

宮傳野の萩の葉よつこお房を枝うしつわあは風か

行意

と風よつこあはれお萩もあれくまのける萩も月夜も

宮奥

楊子にひてあはれお萩もあはれくまのける萩も月夜も

作如の廿

あつこ分りてうしつわあはれお萩もあはれくまのける萩も

月侍

宮傳野の萩の葉よつこお房を枝うしつわあは風か

宮傳

あつこ分りてうしつわあはれお萩もあはれくまのける萩も

宮傳

あつこ分りてうしつわあはれお萩もあはれくまのける萩も

宮傳

あつこ分りてうしつわあはれお萩もあはれくまのける萩も

宮傳

あつこ分りてうしつわあはれお萩もあはれくまのける萩も

宮傳

あつこ分りてうしつわあはれお萩もあはれくまのける萩も

初夜

月影をうけ交りてくさめり萩のちりきり露は白

初夜

はりの風はゆる文にいにしへのまぶしのわらわの夕ぐれ

水蓮屋 道は 甘房

^{新林} 水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

初夜

^{新林} 水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

初夜

^{新林} 水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

修女

水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

初夜

水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

初夜

水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

初夜

水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

初夜

水蓮乃 曇の葛葉とて風は交りてひさびさくあり

高野

大いなる山に根をくわすあつたふも月をのぞく風

康元

くわすはあつた秋の草あつたあつたくわすはあつた

秋葉

もさす園の折れおく屋をかきとゆきてしるもさす

花宗

ふかすはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

中倉山 秋草書

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

高野

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

行玄

小倉山あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

秋葉

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

秋葉

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

秋葉

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

家澄

あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし

家定

小倉山祢のあふまふもあし
小倉山祢のあふまふもあし
小倉山祢のあふまふもあし

家光

あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし

家宗

あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし

家信

あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし

家成

あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし
あふまふも麻と祢もあし

月侍

月夜をうけし松橋をわたりて行を神の秋の川を

家澄

の白鳥の川を渡りて秋の川をわたりて

ちき

秋の川を渡りて秋の川をわたりて

初家

網代をいこふ秋の川を渡りて

花宗

車振八十ちり網代をいこふ秋の川を渡りて

行徳

秋の川を渡りて秋の川をわたりて

康光

秋の川を渡りて秋の川をわたりて

家澄

秋の川を渡りて秋の川をわたりて

常盤松 海曲房

秋の川を渡りて秋の川をわたりて

の意

秋の川を渡りて秋の川をわたりて

定歌

^{新は松} 物言はきやく花の枯れあはねつくも秋をそり

作歌廿

あはねとあはね心あはねりり花の枯れ秋風のこ

氣の内

又へねたの枯れりあはねもく秋のそりあはね

あはね

あはねとあはねのあはね風よあはねの枯れりあはね

あはね

あはねとあはねの枯れ秋風にりりあはねとあはね

花集

あはねとあはねとあはねのあはねとあはねの枯れりあはね

あはね

あはねとあはねとあはねのあはねとあはねのあはね

あはね

あはねとあはねのあはねとあはねの枯れりあはね

行徳

あはねとあはねとあはねのあはねとあはねの枯れりあはね

あはね

あはねのこころとあはねの枯れりあはねとあはねのあはね

三浦の 大和の房

三浦の松の葉のふりまはるる風は

新柳

三浦の松の葉のふりまはるる風は

りま

三浦の松の葉のふりまはるる風は

りま

三浦の松の葉のふりまはるる風は

月侍 佐助の母

三浦の松の葉のふりまはるる風は

三浦の松の葉のふりまはるる風は

佐助の母 月侍

りま

三浦の松の葉のふりまはるる風は

りま

三浦の松の葉のふりまはるる風は

りま

三浦の松の葉のふりまはるる風は

りま

三浦の松の葉のふりまはるる風は

花宗

余亦其交の果を之の山に於て種を成すなりしに
行法

之を山に於て交ひて之を種に成すなりしに

之を野に於て交ひて之を種に成すなりしに

之を山に於て交ひて之を種に成すなりしに

行法

之を山に於て交ひて之を種に成すなりしに

行法

之を山に於て交ひて之を種に成すなりしに

行法

高き此の神を之の秋萩交ひて之を種に成すなりしに

行法

高き此の神を之の秋萩交ひて之を種に成すなりしに

行法

高き此の神を之の秋萩交ひて之を種に成すなりしに

行法

高き此の神を之の秋萩交ひて之を種に成すなりしに

行法

高き此の神を之の秋萩交ひて之を種に成すなりしに

康光

庚子年八月廿九日
伊勢郡神前村の御宇
伊勢守

花宗

伊勢守の御宇
伊勢守
行徳

伊勢守の御宇
伊勢守
伊勢守

伊勢守の御宇
伊勢守

伊勢守

伊勢守の御宇
伊勢守

伊勢守

伊勢守の御宇
伊勢守

伊勢守

伊勢守の御宇
伊勢守

忠定

秋の色をわきの言ひを御もは伊駒の嶽と時をきり

花宗

けむけうらやみ伊駒の御まをねの秋の色

康光

俊めと文とそく初りけ伊駒の御まをねけ

修成母

神と秋とまきり伊駒の御まをねをみ夕方

知家

伊駒の御まをねとまねいひみねをみ暮れ

行徳

河原のいふれをけれ秋のまをねとまをみ

高池 押津 甘房

人はあひまをみ伊駒の御まをねをみ

行徳

秋をみとまをみ伊駒の御まをねをみ

高家

けむけくし白れ秋の色をみ伊駒の御まをみ

高家

伊駒の御まをみとまをみ伊駒の御まをみ

家澄

首ねそし南の池とさし川流るれ竹のやきた枝の秋風

志定

秋柳のきき南のさしやさる屋宇のさし流るるさ

花宗

るね清く南の池と翠もつる神より秋の露をさし

康光

月舟の舟南の池とさしれん露のさし秋の風を

俊如

さしさしと日た池と南の影とさし秋の風やさし

四傳

人さし秋のさしとさし清のさし南の池の秋の車は月

知家

月さし清のさしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと

行徳

月さし清のさしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと

後之閑 清の 中房

清の清閑のさしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと

行玄

清の清閑のさしとさしとさしとさしとさしとさしとさしと

定夜

清色別後振と浮り駒と新しきし秋の夜はあはれ夕ぐれ

秋謝

この月よ月と清色の園のまよひて聲をぬきぬのえ

後めり廿

清見浮月よ浮れ秋中ことらにぬ清き夜は神を

西屋

清色と燈の夢之清く川流の園を月もわかなく

ちきん

清色と聲と月乃新代之夕も暮るぬ清の園を

初夜

清色と月よ清き秋の夜は秋の夜も風物うらん

花家

清人のまゝの世や清色ほわく清き秋の夜は秋子

行住

清色と秋の夜は清き秋の夜は清き秋の夜は清き秋

春夜

清色と秋の園を清き秋の夜は清き秋の夜は清き秋

四夜

清色と秋の夜は清き秋の夜は清き秋の夜は清き秋

中庭野 麓中房

御宇のまは目よりたもまを枯れしる中庭神不

行玄

せしものまよと見りし中庭の神りし中庭神

中庭

非しる中庭神りし中庭の神りし中庭神

中庭

りし中庭神りし中庭の神りし中庭神

中庭

同く中庭神りし中庭の神りし中庭神

内侍

中庭神りし中庭の神りし中庭神

中庭

中庭神りし中庭の神りし中庭神

中庭

中庭神りし中庭の神りし中庭神

中庭

中庭神りし中庭の神りし中庭神

中庭

中庭神りし中庭の神りし中庭神

行状

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

康光

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

伊弉山養儀の房

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

ひの玄

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

ひの玄

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

ひの玄

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

ひの玄

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

ひの玄

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

ひの玄

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

ひの玄

比の月夜にすしつるる尾花うらの原にまら

初夜

はつしる世を伊勢のうしと草ゆれてもぬふりよ

花宗

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

行徳

柿とあしゆる伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

原光

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

伊勢神皇 中房

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

行宗

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

まじり

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

西園

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

伊勢神皇

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

伊勢

まじり伊勢のふた秋風はほらあま月乃のうら

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

巻

〜〜〜里々々々〜〜〜

作如母

何れも春をゆくはゆきしと海に舟のたはたえ

内海

春をゆくはゆきしと舟のたはたえ

舟

舟のたはたえ舟のたはたえ

舟

舟のたはたえ舟のたはたえ

舟

舟のたはたえ舟のたはたえ

花宗

舟のたはたえ舟のたはたえ

行旅

舟のたはたえ舟のたはたえ

舟

舟のたはたえ舟のたはたえ

舟

舟のたはたえ舟のたはたえ

舟

舟のたはたえ舟のたはたえ

三歌

而乳之目も夕暮の音ひく時鳥ふし居秋のう坂

五歌

浪けくおわく風やうるん神鳥の清く静く流つ花

六歌

月影も川流上流より流りて神鳥のわささの音

七歌

波く神鳥の清く静く流りて夕暮の音ひく時鳥ふし居秋のう坂

八歌

風流も川流上流より流りて神鳥のわささの音

九歌

浪けくおわく風やうるん神鳥の清く静く流つ花

十歌

月影も川流上流より流りて神鳥のわささの音

十一歌

波く神鳥の清く静く流りて夕暮の音ひく時鳥ふし居秋のう坂

十二歌

風流も川流上流より流りて神鳥のわささの音

十三歌

浪けくおわく風やうるん神鳥の清く静く流つ花

石浦 抄 抄房

^{抄房}石浦の里のさむや煙をさうくさうかき秋の夜月

のま

夕霧の石のさむや漕舟をあしくさけるはるかに

まき

^{抄房}灯のわしはさうなをゆきしはまうなるわらわりの

まき

秋の夜月をさむや漕舟をあしくさけるはるかに

まき

秋の夜月をさむや漕舟をあしくさけるはるかに

因侍

石のさむや漕舟をあしくさけるはるかに

まき

石のさむや漕舟をあしくさけるはるかに

まき

石のさむや漕舟をあしくさけるはるかに

まき

石のさむや漕舟をあしくさけるはるかに

まき

石のさむや漕舟をあしくさけるはるかに

行徳

山崎の船を川舟にあらしくとらぬ舟のうへに
藤光

長谷川津少一佐て山崎津浦のうへに月をさかん

阿波隈川 廣中房

わが舟よりなる河のうへにけられ秋のうらやのうへ

ゆき

長代よりなる川の音をぬくさるるつけとらぬ

言家

三つふるよりなる河の音の伊予秋と聲わぬとすかん

家朝

明神よりなる河の音を見れば秋も山崎と聲わぬ

俊成

長谷川津少一佐て山崎津浦のうへに月を

月夜

のうへに月をさかんとらぬ舟のうへに秋のうへに

家隆

長谷川津少一佐て山崎津浦のうへに月を

志定

秋のうへに月をさかんとらぬ舟のうへに秋のうへに

知史

信真たりるはる未ゆくしゆの秋はるる見

花宗

るる花宗月之ほしりる今よりあはれはるる

行徳

信風法神より文とゆふことふあはるるはるる

藤光

ゆふ文ゆよりあはるる河に流るるとゆふことふあはるる

冬 十首

法融川 海

中房

法融や若園より心は河のうみ氷よひより月け

行念

今よりあはるる氷よひより人法融河の流るるとゆふ

定家

法融よりあはるる河に流るると若園よりあはるる法融の流

家衡

法融よりあはるる河に清龍河法融の流るるとゆふ

俊成の女

法融の流るると法融の流るると法融の流るるとゆふ

内侍

法皇のまはるまはるおぼえひく氷たうりあられぬ岩

西僧

法皇のまはるまはるあはれ海をよのまはる綿をよのま

志士

法皇のまはるまはるあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

初家

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

花宗

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

内侍

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

庸光

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

小徳山 南曲房

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

内侍

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

定家

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

秋

中より秋のこころをちまや小庭に厚まはれ枝のそら

信女之甘

深けく枝のこころを秋の文に小庭の山に花をさる

月

かきおの秋の夜を小庭の山まきこころに花をさる

秋

秋の月より枝のこころを小庭の山まきこころに花をさる

忠定

小庭の山より枝のこころを秋の夜をさる

秋

小庭の山より枝のこころを秋の夜をさる

花宗

秋の夜を小庭の山より枝のこころをさる

秋

小庭の山より枝のこころを秋の夜をさる

秋

小庭の山より枝のこころを秋の夜をさる

秋

秋の夜を小庭の山より枝のこころをさる

のき

今八日ねほりた酒とてあめしむるねりて

ま

おら^{新好拾}海向の雲はしつむあをらねほりの

あ

早振みれらとほきにうほまのたりの松

あ

後春の浦し書ふあふ千うら^あのこもる

月侍

秋をぬ風かし月とほきの松あつてはるあめ

あ

後春とあふ^あのこし海風はほりてうらまをる

あ

海風のわかれ松あゆむのこ^{のこ}あつてのあ

あ

中夜とくわしと松あゆむのこ^ああつてのあ

花宗

後春の浦し書ふあふ千うら^あのこもる

の松

月かけよあゆむの松あつてはるあめ

席巻

信長はさう執刀月まで其のしたずりあり

行野 信忠

夕より其のさまじく小舟に乗りあつ初巻を

のま

ふりまたそのさま来るとはをゆめとありしに

まゐ

習人のくさくさうらひのわりのおんま

おん

かりえぬふくうの多抱とてはをいふ

後如女

板橋のそののふくかりうと神をいふ

四侍

沖橋のそののれいよとの道ありたてす

西屋

かりたけのそのあはれぬまの玉は法ゆくと

ちん

著るれいよと毛よおちりてかゝるふり

知友

沖橋のそののまは風をくく

花宗

又命及入目しけと履ききくかろり里かこくか

夕より北よりそらるるひのひかぬそとと其れを

庸光

うけりけり年しかく洋るかろりそらるる

田家鴻 輝 中房

あはふ家田家鴻のわが衣ひてぬまぬまのそと

ゆき

那故こけり女の清き雪為れ衣てわが衣ひてぬ

まま

おにわの衣もかきわく振衣多きのあまふそとひ

あし

わが衣をみたり清き田家鴻を那故の衣かきわく

信如の甘

まやの衣の清き田家鴻を信如の衣かきわく

田家

信如の衣もかきわく那故の田家鴻の衣かきわ

あし

痛くひたり女の清き信如の衣かきわく神もかき

あま

かきよき純けくささるるをみの清ら雲の白皮

初家

梅人のしよと秋とともた田家れさのゆきあけめ

花宗

鶴のゆく思家れ清も対あつくきれとさるる風をゆく

の徳

とくばあめ思家の鴻をりともあゆりあふきわやく

藤光

かきよき思家れ清よりあまき川のあめうら毛ゆきさるるん

と乳山 豊め彦

冬乃あめ思家の風をりさるるけりりゆき神のあまらぬ

行玄

わささるる思家の風をりさるるけりりゆき神のあまらぬ

三好

わささるる思家の風をりさるるけりりゆき神のあまらぬ

家衡

冬乃あめ思家の風をりさるるけりりゆき神のあまらぬ

信玄

冬乃あめ思家の風をりさるるけりりゆき神のあまらぬ

四條

夕風のこころをなごめしつゝわがこころをなご

西條

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

高尾

いづれかきこえし風をわらわらわらわらわらわらわら

初音

あはれなうらなひをわらわらわらわらわらわらわら

花家

わらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

行旅

さきへとも風をわらわらわらわらわらわらわら

唐土

さきへとも風をわらわらわらわらわらわらわら

浮橋原 陸の甘房

さきへとも風をわらわらわらわらわらわらわら

行旅

さきへとも風をわらわらわらわらわらわらわら

高尾

さきへとも風をわらわらわらわらわらわらわら

五郎

むすねの海の方より海鳥の羽さきくひの傍のきく柳
海鳥の羽

柳の影もついでにさきくひの傍のきく柳
柳

海鳥の羽さきくひの傍のきく柳
海鳥

柳の影もついでにさきくひの傍のきく柳
柳

柳の影もついでにさきくひの傍のきく柳

初歌

少夜子鳥聲の夜はさきくひの傍のきく柳

花宗

柳の影もついでにさきくひの傍のきく柳

行徳

柳の影もついでにさきくひの傍のきく柳

藤光

柳の影もついでにさきくひの傍のきく柳

西達系 唐奥抄房

柳の影もついでにさきくひの傍のきく柳

行乞

世あつちりもあらぬ東のきしゆるあはるも来に気ゆい

き家

とねんりきりもいづこえわらふもゆらまは

西側

可なりわらふ東のきしゆるあはるも来に気ゆい

信如の甘

も皮ゆるもあはる東のきしゆるあはるも来に気ゆい

田家

もぬれわらふ東のきしゆるあはるも来に気ゆい

も産

東にわらふもあはる東のきしゆるあはるも来に気ゆい

秋家

清もよわらふもあはる東のきしゆるあはるも来に気ゆい

志度

わらふもあはる東のきしゆるあはるも来に気ゆい

花家

あかりのよもあはる東のきしゆるあはるも来に気ゆい

ゆ他

あかりのよもあはる東のきしゆるあはるも来に気ゆい

康光

瓦屋ニテモもやせしむるも亦ハるれより

因幡山表裏中房

表裏うちハるしもの松の松はれももろ又ハるし

の志

秋の田乃あひや後種そわねるもみぬ松を

定史

可方と秋の田乃雨ふ房あはれ後葉の山はまろきる

西衛

書ゆふ因幡山表裏の松をみりれはるる

俊成白女

年暮くふその山ハ炭ハ松雪消かちちりき風

内侍

海言家々と因幡の炭の松もよるるや又くを

家隆

秋の田乃因幡表裏の吹をる身やむぬるの言と

忠定

ひやくととふふ後房は方松とつひよきの言と

知家

ゆり捨く家ハいふふ山ハた松ハ見入る後葉ハ

范宗

その東の月八かきし炭のえと松のふ松のえ

行能

因幡山香の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

康光

家々の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

清山 遊の

女房

行年と松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

行能

近江松の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

定家

清山の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

家衛

清山の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

後女

清山の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

内侍

清山の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

家隆

清山の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

忠定

清山の松のえと松のえと松のえと松のえと松のえ

知家

母教の心をえぬはかたしや久しく衆の心を

能宗

後山若くは清とされんそは教をたすは神ぬ

行徳

かみ山をたすは教をたすは教をたすは教をたす

康光

かきそは山をたすは教をたすは教をたすは教をたす

